

「不戦の誓い」次代へ

全国3都市で平和の巡礼 文化・人種超え祈り

東京

米国による広島への原爆投下から80年を迎えた6日、超宗派の宗教者と市民が東京、奈良、鹿児島の全国3都市で、世界平和を祈念しながら宗教施設を巡る「平和の巡礼」を同時に行った。東京では曹洞宗の僧侶やカトリックの司祭、市民、大学生ら約20人が心を一つに行進し、世界平和の実現を祈った。

港区の曹洞宗大本山永平寺東京別院長谷寺を出発し、区内の寺院や教会を参拝しながら約2時間 にわたって行進した。ウクライナ大使館も訪れ、一日も早い戦争終結を共に祈念した。大使館職員

の男性は「ロシア軍によるミサイル攻撃がより激しくなっている。私の家族もキーウにおり、不安な日々を過ごしている」と話した。



カトリック麻布教会の江部純一主任司祭は「イエスの御心は愛と平和そのもの。平和を願う私たち一人一人の祈りが神様に届きますように」と語った。

都内を巡礼する宗教者と市民

平和の巡礼は、鎌田厚志・曹洞宗直指庵住職が十数年前に地元・鹿児島島の宗教者らと共に始めた運動。教団や宗派、主義主張にとらわれず世界平和の一点だけを掲げ行進する。東京での開催は今年で3回目。

国際情勢の悪化や国内での排外主義の拡大を受け、平和を求める活動の意義はますます大きくなっている。東京の巡礼を主管する中野良教・曹洞宗東禅寺住職は「困難な時代だからこそ宗教、人種、文化の壁を乗り越えて世界平和を人類共通の願いにしていける必要がある」と話した。柴山輝行・曹洞宗泉寺住職は「先人たちの『不戦の誓い』を次の世代につなげていくことが大人の責任」と語った。

（奥西極）

着。南大門跡から中金堂の方角に向かって祈りを捧げた。僧侶らが巡礼する姿を偶然見かけて合流した清水えり氏(30)は「日本は唯一の被爆国で、平和を訴える必要がある。日本人は祈りの民族であり、自分ができることをしたい」と思っていることに歩き、祈らせてもらった」と話した。

回は世界同時巡礼を計画しており、バチカンや情勢次第ではウクライナ

道中、一般からの参加も

奈良

奈良市では6日、曹洞宗、浄土宗、立正佼成会の宗教者ら25人が核廃絶や世界平和を祈りながら「平和の巡礼」を行い、JR奈良駅から法相宗大本山興福寺まで歩いた。

出発前、森俊英・浄土宗正明寺住職の提案で参加者は日本原水爆被害者団体協議会（被団協）が5日に発表した声明を黙読した。鎌田厚志・曹洞宗直指庵住職は参政党所属の国会議員による「核武装は安上がり」発言な

どに触れ「核戦争になれば全てが終わる。対立や暴力でなく、それぞれのやり方で祈って歩きましょう」と呼び掛けた。6日も厳しい暑さに見舞われたが、市民や外国人旅行者からの応援の声を受けながら興福寺に到



奈良市の三条通りを歩く宗教者ら

諄詞を奏上し核兵器無き世界の実現を願う広島県宗教連盟理事長の野上光康・三篠神社宮司



った所で、爆心地に近かったことからここで多くの遺体が火葬された。1946年に広島戦災供養会の前身団体が発足し、

慰霊行事は午前6時15分から始まり、上島輝彦

戦後80年

80年。保有国は核兵器を

本山三井寺（園城寺）で6日朝、原爆犠牲者慰霊・世界平和祈願法要が営まれた。広島に原爆が投下された午前8時15分に



原爆

での巡礼を目指しているという。（椎葉太貴）

寺院用仏具製造直販



Humada

須弥壇・人天蓋・幢幡・護摩壇製造

<http://www.jiin.co.jp/>

名古屋市熱田区千年1-7-14

寺院クマダ 検索

TEL: 052-633-4600